

高校1年（ ）組（ ）番（ ）

1 次の文を英文に訳してみよう

小供等よ、此老人の如く大望にあれ

2 明治という時代について

ドラマ「坂の上の雲」オープニングナレーションより

まことに小さな国が、開化期を迎えようとしている。
小さなといえば、明治初年の日本ほど小さな国はなかったであろう。

産業といえば農業しかなく、
人材といえば三百年の間、読書階級であった旧士族しかなかった。

明治維新によって、日本人ははじめて近代的な「国家」というものをもった。
誰もが「国民」になった。
不慣れながら「国民」になった日本人たちは、
日本史上の最初の体験者としてその新鮮さに昂揚した。

この痛々しいばかりの昂揚がわからなければ、この段階の歴史はわからない。

社会のどういう階層のどういう家の子でも、
ある一定の資格を取るために必要な記憶力と根気さえあれば、
博士にも官吏にも軍人にも教師にもなりえた。
この時代の明るさは、こういう楽天主義から来ている。

今から思えば実に滑稽なことに、
米と絹の他に主要産業のないこの国家の連中が
ヨーロッパ先進国と同じ海軍を持とうとした。陸軍も同様である。
財政が成り立つはずは無い。

が、ともかくも近代国家を創り上げようというのは、
もともと維新成立の大目的であったし、
維新後の新国民達の「少年のような希望」であった。

※上記の文章は原作である小説「坂の上の雲」(司馬遼太郎)の後書き及び本文中の言葉によって作られている。

3 William Smith Clarkについて

William Smith Clark、1826年7月31日 - 1886年3月9日

ドイツの留学を経て、20代にして教師就任の要請を受けて母校アマースト大学教授となる。

()戦争に参加。北軍の将校として活躍。

()農科大学(現()大学アマースト校)実質的な初代学長として就任。

アマースト大学時代に在籍していた日本人留学生・新島襄(()大学創始者)の紹介により

日本政府から熱烈な要請を受けて来日

4 札幌農学校について

前身は開拓遂行のため欧米技術を導入することを目的とした開拓使仮学校(東京・芝)。

学生は士族の子弟ではあるが、素行の悪いものが多く、外国人講師もお手上げであった。

当時の開拓使次官・黒田清隆が彼らの様子を見てステッキを振り回して激昂した記録もある。

黒田清隆は「開拓の要は人材教育、その根本は母となる女子の教育にある」として女子留学生を派遣。
その留学生の一人が津田梅子である。また開拓使仮学校内に女子学校も設立(札幌移転後廃校)

1875年、札幌に移転し、札幌学校、次いで札幌農学校と改名。

札幌農学校の初代教頭(事実上の校長)としてW. S. Clarkが招かれる。W. S. Clarkは札幌に赴任する船内で農学校入学予定者の粗暴な態度を見るに黒田にキリスト教を授業に取り入れることを進言した。W. S. Clarkが札幌で教鞭をとったのは約8ヶ月。教え子は16人。→卒業後、各方面で活躍。

*別れの言葉 ([A])

5 明治という時代をを考えてみよう 「坂の上の雲」エンディングより

維新後、日露戦争までという三十年あまりは、文化史的にも精神史の上からでも、
長い日本の歴史の中で実に特異な時代である。

これほど楽天的な時代はない。

無論、見方によってはそうではない。

庶民は重税に喘ぎ、国権はあくまで重く、民権はあくまで軽く、
足尾の鉍毒事件があり、女工哀史があり、小作争議がありで、
そのような被害意識の中から見れば、これほど暗い時代はないであろう。

しかし、被害意識でのみ見るのが庶民の歴史ではない。

明治はよかった、という。

『降る雪や 明治は遠く なりにけり』という

中村草田男の澄みきった色彩世界が持つ明治が一方にはある。

この物語は、その日本史上例のない幸福な楽道家たちの物語である。
楽道家たちはそのような時代人の体質で、前をのみ見つめながら歩く。

登ってゆく坂の上の蒼い天に、もし、一朵の白い雲が輝いていたら、
それのみを見つめて坂を登ってゆくであろう

*W. S. Clarkの別れの言葉がこの時代に広まっていった背景を、若者の視点でまとめてみよう

6 次の文を読んでみよう

When I was young, there was an amazing publication called The Whole Earth Catalog, which was one of the bibles of my generation. It was created by a fellow named Stewart Brand not far from here in Menlo Park, and he brought it to life with his poetic touch. This was in the late 1960's, before personal computers and desktop publishing, so it was all made with typewriters, scissors, and polaroid cameras. It was sort of like Google in paperback form, 35 years before Google came along: it was idealistic, and overflowing with neat tools and great notions.

Stewart and his team put out several issues of The Whole Earth Catalog, and then when it had run its course, they put out a final issue. It was the mid-1970s, and I was your age. On the back cover of their final issue was a photograph of an early morning country road, the kind you might find yourself hitchhiking on if you were so adventurous. Beneath it were the words: "Stay Hungry. Stay Foolish." It was their farewell message as they signed off. Stay Hungry. Stay Foolish. And I have always wished that

for myself. And now, as you graduate to begin anew, I wish that for you.
[B] Stay Hungry. Stay Foolish.

7 示された二つのことばを比較し、違いを答えよ

| [A] Boys, be ambitious. | [B] Stay Hungry. Stay Foolish. |
|-------------------------|--------------------------------|
| | |

8 あなたならどのようなメッセージを残しますか？英語で表現し、日本語訳をつけなさい

補足資料

“Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish 権力・地位の増大 aggrandizement, not for that 空虚な、はかない evanescent thing which men call 名誉、名声 fame. Be ambitious for the 達成 attainment of all that a man ought to be.”

という文章が出回っていますが、これは昭和19年頃のある書物に書かれた文章が昭和39年の朝日新聞の天声人語に掲載されてから広まったようです。ただし、William Smith Clarkが確実にこの言葉を言ったという当時の記録はありません。同様に、授業で紹介した「坂の上の雲」は現在も大変に人気のある小説ですが、史実を元に司馬遼太郎が膨らましたフィクションも多分に含まれています。

情報を正確に理解・分析し、一次史料（原典）かどうかを意識するという姿勢が、探究的な学びには必要ではないでしょうか。

自己評価シート

次の項目に対して該当する番号に○をつけてください。

- 1 よくできた(強くそう思う) 2 できた(そう思う)
- 3 あまりできなかった(あまり思わない) 4 できなかった(思わない)

| | 観点 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|----|---|---|---|---|
| 急速な近代化の進んだ明治日本と当時の人々を動かした時代背景を理解できたか | 知 | | | | |
| 英文を比較して、意味の違いを適切に読み取ることができたか | 知 | | | | |
| 今回取り上げられた言葉を、背景知識を活用して理解を深め、現代に合わせた表現に直すことができたか | 思 | | | | |
| 自分の指針となるような考えを、短い英文にまとめて表現することができたか | 思 | | | | |
| 時代背景と学習してきた英語表現への理解に努めたか | 態 | | | | |
| 主体的に理解・表現する姿勢を持てたか | 態 | | | | |
| この学びにより英語・社会の教科をより深く学びたいと思ったか | 態 | | | | |
| 今回のような合科授業をまた受けたいと思ったか | 態 | | | | |

今回の授業の感想・思ったことなどを自由に書いてください